

えでいぷりよの

Edy Priyono

外国語学部 教授
Sarjana(教育学) /
Sebelas Maret 国立大学(インドネシア)

🏠 ホームページ URL
なし

主な研究業績

【共 著】

- 『インドネシア語ことわざ辞典』 大学書林 (2001年) (共著者 左藤正範)
- 『プログレッシブインドネシア語辞典』 小学館 (2018年) (舟田京子、高殿良博、左藤正範編)

【論 文】

- Tinjauan tentang Peronomasia di Media Cetak Indonesia 「インドネシアの印刷メディアにみられる掛けことばに関する一考察」 『京都産業大学論集』 外国語と外国文学系第29号 (2002年)
- Sebuah Tinjauan atas Singkatan, Akronim dan Politik 「略語、頭字語と政治についての一分析」 『インドネシア—言語と文化』 第26号 (2020年)
- Sebuah Tinjauan atas Akronim & Singkatan dalam Pemilu 2014 「2014年の総選挙で使われた頭字語と略語についての一分析」 『インドネシア—言語と文化』 第21号 pp.12-21 (2015年)
- Sebuah Tinjauan atas Singkatan di Advertorial Kementerian RI 「インドネシア政省庁による広報記事の中の略語についての一分析」 『インドネシア—言語と文化』 第17号 pp.47-55 (2011年)
- Meninjau Tren Baru lewat Singkatan Asing Kontemporer di Media Cetak Indonesia dan Jepang 「インドネシアと日本の印刷メディアにおける現代の外国語略語にみる新しい時代の潮流」 『インドネシア—言語と文化』 第16号 pp.2-12 (2010年)
- Sebuah Tinjauan tentang Iklan CSR di Media Cetak Jepang dan Indonesia 「日本とインドネシアの印刷メディアにおけるCSR広告についての一分析」 『インドネシア—言語と文化』 第14号 pp.23-33 (2008年)

キーワード

インドネシア語、頭字語、メディア

研究テーマ Research theme

インドネシア語の頭字語分析

概 要 Overview

頭字語は、インドネシア社会の時流を映しながら、次々に新たに作り出されて新聞、雑誌等の印刷メディアで多用され、これを分析することはインドネシア社会を理解する鍵となりうる。

頭字語はインドネシア語の顕著な特徴であり、インドネシア人にとっては身近に溢れているものである。たとえば、インドネシアでは多くの町が頭字語のスローガンを持っているが、中部ジャワ州でろうけつ染 (batik) で有名な町であるペカロガン市のスローガンは BATIK である。町の名産品と Bersih, Aman, Tertib, Indah, Komunikatif 「清潔、安全、規律、美、コミュニケーション」の頭字語を掛けたスローガンになっている。

頭字語は表面の意味だけでなく、そこに込められたメッセージを読み解くことも重要である。たとえば、1998年からの経済危機のころ、Sembako は本来 Sembilan Bahan Pokok (米、砂糖、油などの「主要9品目」の意) の3語をつないだ頭字語として登場したが、売り惜しみに対して政府が無策だったことを皮肉って Semua Barang Kosong (すべての物資がない) という意味でも使われた。

2014年、国家を二分する接戦となったインドネシア大統領選挙では、彗星のように登場した Joko Widodo 氏 (Jokowi) が軍隊出身でスハルト元大統領の女婿でもある Prabowo 氏を破って勝利した。インドネシアの歴史に残るこの選挙の中で、印刷メディアには新しい頭字語が氾濫し、選挙戦を加熱させた。例えば、選挙管理委員会は投票を呼び掛けるマスコットキャラクター Si Kora (コラちゃん) をつくり、BATAL GOLPUT! (棄権するのはやめよう) というキャンペーンを行った。Kora は kotak suara (投票箱)、GOLPUT は golongan putih (棄権) の頭字語である。

2019年の大統領選挙は再び Jokowi と Prabowo の戦いとなり、新たな頭字語が登場した。例えば、Seknas JOKOWI は Sekretariat Nasional Jaringan Organisasi dan Komunitas Warga Indonesia (インドネシア国民の組織および共同体の全国ネットワーク事務局) の頭字語で、5年前に比べて圧倒的なスマートフォン社会となっていることを反映している。フェイクニュースが流れないようインターネットを監視する動きも、Mafindo、つまり Masyarakat Anti Fitnah Indonesia (インドネシアアンチフェイクニュース団体) という頭字語になった。

このように、インドネシア語の頭字語はインドネシアの社会、経済、政治の状況を映す鏡であるといえる。

応用分野 Application areas

インドネシア地域社会研究、日本とインドネシアの経済交流

共同研究等へのニーズ Need for joint research

インドネシアの政治、経済、社会分野の研究における協働